

ディーキン大学 Study Abroadについて

現地のクラスでは、積極的に発言をします。意見を述べるだけでなく質問もします。Deakin大学の図書館は24時間利用可能で、飲食も可能です。設備がしっかりしているので集中して課題をこなすことができます。

英語学校を卒業しアカデミックに進んだ頃が一番辛い時期でした。アカデミックは英語学校の授業とは比べ物にならないくらい内容や課題が難しく、自分が思っていた以上に聞き取りや発言に苦労しました。

成長していない自分に「語学学校の5か月間一体何をしていたんだろう…」と自分に嫌気がさしたり、授業終わりに図書館のトイレで泣いたりしたときもありました。しかし、毎日しっかり授業に出ること、そしてどんなに大変でも課題は絶対手を抜かないというのが私の留学の目標の一つだったので、よくわからない箇所を何度も教授に聞き、アドバイスをもらい、添削をしてもらいました。

初めは、自分の英語が伝わるか不安でしたが、どの教授もフレンドリーで親切なので、聞けば丁寧に答えて下さいます。英語で2000字書くことは容易ではなく、他の授業の課題とも並行してやらなければならないので、余裕を持った計画を立てて取り組むべきだと思います。また、エッセイサポートセンターというチューターの学生が文法や言い回しなどアドバイスをくれるところもあるので積極的に活用することをお勧めします。

もちろん机に座って勉強する時間も大切ですが、せっかく留学しているのですから、外に出ていろいろな経験をする方が実りある留学生活になると思います。私の場合、サークル活動はしていませんでしたが、英語学校でのボランティアや小学校で日本語を教えるボランティア、寄付制レストランでのボランティア活動をしました。どの活動も非常に楽しく、間違いを恐れず英語を積極的に話せるようになりました。日本人同士で固まらず、例え一人であっても、勇気を持って挑戦してみることが留学生生活を成功させる鍵となります。

メルボルン・オーストラリアについて

オーストラリアはワーク・ライフ・バランスが整っている国です。ほとんどのお店は5時半に閉まり、クリスマスも閉まっています。ホストファミリーに日本人は朝早く仕事へ行き、夜遅くに帰宅すると言ったら驚かれました。オーストラリアでは、しっかり家族の時間を確保し、仕事よりも家族が優先という考えがあります。終バスが早かったり、夜には開いているお店はほとんどありませんが、特に不便を感じませんでした。

また、バスの運転手やお店のスタッフにもThank you, mate!やHave a nice day! と気軽に挨拶を交わす習慣も素敵だなと思いました。日本でもこうなればいいのになと思います。人を幸せするだけでなく、私も気持ち良い一日を送ることができました。

生活習慣は早寝・早起き、健康に気を遣うようになりました。オーストラリアは日本よりもベジタリアンが多く、グルテンフリーの商品もたくさんあります。テーブルマナーはすごく勉強になりました。夕食はテレビを消し、家族との会話を楽しむ時間です。他の人が話している時は割り込まないことや、口の中に食べ物が入っている時は飲み込んでから話すなど、子供たちへの食事のしつけがしっかりしていました。

ホームステイ・学校の寮・アパートで生活する上での注意点

しっかり家のルールは守るようにしましょう。しかし、納得いかないことがあれば、すぐに伝えるべきです。自分が心地よく過ごせるために家族とのコミュニケーションは非常に大切です。

電気製品など、もって行くと便利だと感じた物

特にないです。ヘアドライヤーは現地のお店で安いのを買うことができるので、持っていかなくても問題ないです。

「留学生はこうしたほうがいい」と思うこと

なんらかのコミュニティに属した方が良いと思います。もちろん机に座って勉強する時間も大切ですが、せっかく留学しているのですから、外に出ていろいろな経験をする方が実りある留学生活になると思います。

私の場合、サークル活動はしていませんでしたが、語学学校でのボランティアや小学校で日本語を教えるボランティア、寄付制レストランでのボランティア活動をしました。どの活動も非常に楽しく、間違いを恐れず英語を積極的に話せるようになりました。日本人同士で固まらず、例え一人であっても、勇気を持って挑戦してみることが留学生生活を成功させる鍵となります。

出発までに準備しておけばよかったと思うこと

オーストラリアのスラングを少し覚えて行くと会話のネタとなるかもしれません。

また、日本のことをよく聞かれるので、最近のニュースや流行っていること、日本の文化や政治についても事前に調べておきましょう。

留学して自分がどう変わったか、成長したか

この留学を通して、行動力と挑戦心が養えたと思います。

例えば、留学先で参加した寄付制レストランでのボランティア活動は私にとって大きな存在となりました。初めの頃は、日本人が私一人だったこともあり、上手く英語でコミュニケーションが取れるか不安で、参加するか悩みました。

しかし、日本では経験できないだろうと思い、思い切ってやってみることにしました。あの時の一歩があったからこそ、素敵なスタッフの方々やお客さんと出会え、挑戦することの素晴らしさや視野を広げる大切さを学びました。

今では、たとえ小さな挑戦でも迷ったら「とりあえずやってみよう」とポジティブに考えるようになり、様々なことに積極的にチャレンジするようになりました。